

朋友だより

新年度の季節がやってきました。皆様お変わりありませんか。
『日本的「無私」の経営力』という嬉しくなるタイトルの本を読みました。日本には歴史的・風土的に育まれた日本的良さが随所にあります。これらについて考えて見ました。

2013年4月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



田久保善彦 著
『日本の「無私」の経営力』を読む



友人から薦められて田久保善彦著『日本型「無私」の経営力 - 震災復興に挑む7つの現場 -』(光文社新書 2012年11月)を読みました。3.11の大震災の直後から震災復興に挑戦した7つの現場(大手企業5社、中小企業1社、一般財団法人1社)の感動的な物語です。本のタイトルが気に入りました。7つの現場のうち、2社について紹介します。

1. ヤマトホールディングス(株)

ヤマト運輸のセールスドライバー達は自分達も被災したのですが、3日程経ち、「命は助かった」と感じるようになった時点で、救援物資が全国から大量に集まっている事を知ります。

会社のセンターにはトラックが残っていてこの地域のことなら誰よりも知っている。「運ぶ」ことは自分にしかできないことだと思い、救援物資を運びたいと気仙沼市役所に打診したところ、市から全面的な支援の要請を受けることになりました。

このようにして社員の自発的な行動の報告を受けた経営陣はそれを承認、支援すると共に、会社として何が出来るかを考え、到達したのが「宅急便1個につき10円の寄付を1年間継続する」というもの。純利益の4割に当たる総額130億円(実際には142億円)という額は民間企業が行う寄付としてはかつて無い規模である。同社には利益に敏感な外国人投資家が約30%占めているが、彼らのOKをとって、実施したのですから見事です。

ヤマトホールディングスの経営者は常に現場を第一に考え、社員に任せながら、一方で経営者として最終的な責任を取る気概を持っている。つまり経営者と社員との間の信頼関係が構築されている。(同書 P.38)

2. 富士フィルム(株)

3月11日以降、「お客様コミュニケーションセンター」に「津波の影響で海水と汚水を被った写真をどう洗えばいいか」の問い合わせが多数寄せられた。部長クラスの社員が中心になり、写真洗浄方法の確立に取り組み、海水に存在する微生物を殺菌洗浄することで写真の劣化が止まることを突き止めます。

しかし、災害現場での写真洗浄の活動にどれだけの意味があるかで迷っていたとき、現地の声が聞こえてきました。「津波にあった人は家も自動車も全てが流されてしまった。本当に何もありません。あるのは記憶だけ。でもその記憶も時間とともに薄れていってしまいます。たった一枚の写真があることが今まで生きていた証となり、これからは生きていくための支えになるのです。」

これで、写真の重要性を改めて認識し、社内で写真救護プロジェクトの立ち上げを提案します。社長も即承認し、短期間で全社プロジェクトが発足します。海水を被った大量の写真を同社神奈川工場に運び込み、全社及びグループ会社の OB、OG その家族にボランティア活動として集ってもらい、洗浄作業を行います。

現在では写真フィルム事業は同社の中核ではなくなり、写真フィルム事業に携わったことのない従業員も増えています。しかし今回の活動を通じて社員たちは、人々にとっていかに写真が大切であるかを改めて理解することができたのです。

日本人の精神基盤にあるもの

上記の本に呼応するような記事が日本経済新聞に掲載されました。2013年3月23日付日経(夕刊)

日本人の精神基盤

調和・共生・順応が底流に

上田正昭さんに聞く

という記事です。上田氏は1927年生まれ、歴史学者、京都大学名誉教授、専門は古代史、神話学。近著『私の日本古代史(上),(下)』(新潮選書 2012年12月)で縄文以前から律令国家までの通史を発表しています。

上田氏はアジアとのつながりの中で、日本を理解することの大切さを訴えています。そして日本人の精神の基盤に調和・共生・順応が底流にあると言います。

TPP は日本の良さを破壊する

同記事での上田氏の発言です。

古来、日本では海を越えて人が往来し、文化や思想、宗教を受け入れ、独自のものにしてきた。

日本人の精神性で欧米との違いを感じるのは自然と向き合う姿勢です。自然と対立するのではなく、調和し、順応してきた。人間相手でも共存する手法をとっています。古事記や日本書紀の神話には、武力ではなく、言葉で服属を誓わせ、平定する国譲りの記述があります。戦いにしても、戦い抜くのではなく、城を明け渡させることがありました。江戸城明け渡しがまさにこれに当たります。

造園業の涌井雅之氏も造園業の立場からですが、同様な主張を展開しています。涌井雅之著『奇跡と希望の松 - なぜ一本の松だけが生き残ったのか - 』（創英社 / 三省堂書店 2012年 8月）の中で次のように述べています。

日本人はこうした自然の猛威をかわしたり、だまされし和らげるといった方法を必然的に学んでいった。そうしないと生き残れないからである。米国や欧州の各国では、その殆どに対して「力」をもって制することに力点を置いてきたと言えよう。（中略）これに対し、日本ではとくに建築や土木の技術において「いなす」ことを学び、実行して自然との調和を目指してきた。この良い例が「五重塔」という建築物である。（同書 P.49）

山林や棚田、ため池など人間が手入れした場所には多くの多様な生物が生息している。生態学的な自然の条件と人間社会の条件、これが噛み合って一つの調和した生産の体系になると、そこに里山ができる。

欧米の人たちにとって自然（ネイチャー）は原生を意味する。手つかずでワイルドなままの状態を指している。

ところが日本人は、人間と自然とが混じり合っている状態をも自然だと考える。調和して共生している姿も自然。里山も自然。（中略）

人と自然の共生の知恵はこのような所にもある。つまり開発と保全が対立の関係ではない。両方成り立つという道を見つけたわけだ。（同書 P.161）

今まで見てきたように、日本には歴史的に育まれた日本的良さが随所にあります。例えば、自然と共に生きる知恵、日本人の精神の基盤にある調和・共生・順応などです。

これを企業経営を行う場合にも、是非とも大切にしていきたいです。前号で紹介した「禅資本主義」は、その一つの典型といえるでしょう。

これらとの関係の中で、現在、国論が二分されている、TPP（環太平洋連携協定）について考えて見ます。TPP問題は日本社会の将来にとって重大問題です。

例外なき関税撤廃が前提になっていることから考えて、TPPに日本が参加すれば、日本農業が潰滅的な打撃を受けることはほぼ間違いのないでしょう。日本農業は食料の生産だけでなく、国土の保全、里山や棚田など日本人の心のふるさとである日本的田園風景の担い手です。私達が世界に誇る数々の日本的良さの根本に関連しています。これを担っているのが日本農業といって過言ではないでしょう。

日本農業の担い手を失うことは、食料の自給率の低下にとどまらず、国土は荒れ、世界に誇るべき日本的良さの原点を失うこととなります。この原点を犠牲にしてまで、TPPに参加することに意義があるかどうか、慎重に考えることが望まれます。

長野県飯田市で「再生可能条例」が今年4月1日から施行になりました。（読売新聞 2013.4.1 付）

住民が地域の再生可能エネルギーを活用して行う持続可能な地域づくりを支援する条例です。地域にある太陽光や水力など再生可能エネルギーを住民が優先して利用できる「地域環境権」を保障するとともに、住民組織による公共性の高い発電利用、売電などの事業を市が支援するシステムを盛り込んだ画期的な条例です。

このような条例こそ、これからの日本社会が必要とするものでしょう。



ていくあい有限会社

(奈良県奈良市：代表取締役 竹村ひとみ 氏)

創業9年目の介護の専門会社。スタッフ数はパートも含め11名。通所介護(デイサービス)と訪問介護(ヘルパー派遣)、居宅介護支援(ケアマネージメント)を行っています。

認知症状が出て近隣で困られていた利用者も、当施設に通うようになると1~2ヶ月で人が変わった様に穏やかになると評判の施設です。

社長以下スタッフ全員が女性です。人数は少ないものの、年代は20代から60代と幅広くそれぞれの特技や好きなことを生かし、お互いに支え合って、成長しあえるような風土づくりを目指しています。利用者を含め笑顔が絶えない職場です。施設や設備が古いことと人手不足が悩みの種ですが、スタッフ同士の協力意識と創意工夫でカバーしています。

音楽療法には早くから取り組んでいますが、新しく紙芝居療法(紙芝居を用いた、生きがい療法)に挑戦しています。一年前から準備をはじめ、今年3月に第一回公演を近くの保育園で行い、小さな観客に大きな感動を与えました。テーマは「花咲爺さん」。全くの手作りの紙芝居で、利用者の方々にも役割(作品作り~出演等)を担ってもらいました。

この紙芝居療法を大きく育て「日本全国紙芝居の旅」が、利用者・スタッフ達の夢です。

経営理念

『 出逢ってくれて ありがとう 』

- ・ていくあいは、在宅介護のいろいろなニーズにお応えし、「あなたに出逢えて良かった」と家族のようなかけがえのない存在になります。
- ・ていくあいは、誠実に生き、仲間と夢を語り合い、仕事の喜びを共有し、人として成長しつづけられる会社を創ります。
- ・ていくあいは、音楽とともに笑いあふれ、ご利用者さまといっしょに、若者の夢の実現と、子供たちの優しい心を育むお手伝いをして、地域社会に貢献します。



お問い合わせ： ていくあい有限会社
〒631-0065 奈良県奈良市鳥見町2-19-2
TEL.0742-41-2955 FAX.0742-41-2120

~ あとがき ~ *

朋友だより121号をお届けいたします。

新聞の読者が投稿した川柳に「苦を抜けばアベノミクスはアベノミス」と載っていました。株高、円安で好況感が報じられていますが実感できません。日銀総裁が金融緩和で2%の物価上昇目標を掲げております。4月になってから、輸入品価格の値上がり等、続々と生活必需品や電気代の値上げラッシュが見込まれています。加えて消費税増税、生活者にとっては先行きの不安感が一杯です。(野上)



朋友

有限会社 コンサルタント朋友
〒113-0022 東京都文京区千駄木3-36-11
千駄木センチュリー21 602号
TEL.03-5815-3021 FAX.03-5815-3022

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp
URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>